近海漁業資源の家魚化システムの開発に関する総合研究（抄録）

オオバモク，オオバノコギリモクの群落生態（昭和55年度）

中久　喜昭・小島　博

本研究は水産庁の受託研究として，ガラモ場造成に関する基礎資料を得るため実施した。昭和55年度はオオバモクの分布域，生育環境，生長，成熟時期，群落内の動物相，藻食動物の現存量について調査し，季節的消長，並びに変動を明らかにした。調査結果の詳細は近海漁業資源の家魚化システム開発に関する総合研究（昭和55年度，水産庁）を参照されたい。

1　研究方法

調査は徳島県海部郡由岐町阿部地先を選定し，昭和55年5月から隔月に1回，オオバモクの分布域を4階級（濃生，密生，疎生，点生）に区分して坪刈調査を実施したほか，10月と凋落期の1月はオオバモクの分布域に調査ラインを4線設け，海底地形，底質，及び動植物の坪刈等の調査を実施し，分布域並びに分布の消長を明らかにした。また成熟期は経月的にオオバモクを採集し，藻体と円錘状根の年輪観察から成熟時期と年令を明らかにした。

2　結　果

(1)　オオバモクの分布と密度

オオバモクは低潮帯から水深6.5m付近まで分布するが，生育密度の高い水域は分布域の中央部で，水深が1.0～2.5mの楕円形に囲まれた水域に位置し，その水域から外側に向って密生，疎生，点生域が継がっている。

オオバモクの分布密度は濃密な水域で34～95個体／m²，2.9～9.6kg／m²と多いが，季節的に消長がみられ，繁茂期は凋落期の2倍に相当する密度であった。

オオバモクはアラメ，ワカメ，アカモクの大型褐藻類と混生して分布するが，オオバモクの密度の高い水域はアラメ，ワカメ，アカモク等の占める割合も低いが，オオバモクの密度が低い水域はアラメ，アカモク等の占める割合が高かった。

(2)　オオバモクの個体生長

オオバモクの藻体は伸長，増重，成熟，末枯等の季節的な現象がみられる。高年令群では10月の繁茂期に223cm，1,560gに達する個体が採集されたが，凋落期の1月は体長，重量とも

繁茂期の1／2に減少するようであった。

また，オオバモクの寿命は6年と推定された。

(3) オオバモクの成熟

オオバモクは9月上旬，生殖器床を肥大させ雌雄の判別が可能になり，10月上旬成熟して生殖器床に放出した卵が観察されたが，卵の放出は11月下旬頃まで2～3回に分けて行われるようであった。また円錘状根の年輪から3年生以上の藻体が成熟するようであった。

(4) 群落内の動物相

オオバモクの群落内から採集された動物は80種で，その主なものは，アメフラシ，フトコロガイ，ヒメクボガイ，サザエ，ヤドカリ，メガイなど藻食性動物の占める割合が高かった。